

国民健康保険・後期高齢者医療被保険者の方へ **人間ドック費用の一部を助成します**

人間ドックを受診して、病気などの早期発見につなげ、ご自身の健康を維持しましょう！

申込種別 一般ドック（日帰り・宿泊）
および 脳ドック（日帰り）

受診期間 6月1日（土）～令和7年3月31日（月）

対象 ・国民健康保険の35歳以上の被保険者で、国民健康保険税に未納が無く、特定健診を受診しない方
・後期高齢者医療の被保険者で、後期高齢者医療保険料に未納が無く、健康診査を受診しない方

検診機関 とちぎメディカルセンター総合健診センター、とちぎメディカルセンターとちのき、西方病院、獨協医科大学病院、自治医科大学健診センター、大岡メディカルクラブ、慶友健診センター、宇都宮記念病院総合健診センター、栃木県保健衛生事業団、佐野厚生総合病院（国保のみ）、佐野医師会病院、佐野市民病院、済生会宇都宮病院

助成額 ドック費用の2分の1相当額（千円未満切捨、年度内1人1回）上限2万円 ※医療機関で助成額を差し引いた自己負担額をお支払いください。

定員 国民健康保険 1,100人
後期高齢者医療 400人
※いずれも定員を超えた場合抽選



申込 申請書（4月16日（火）から本庁保険年金課・各総合支所地域づくり推進課で配布、市ホームページからダウンロード可）に必要事項を記入し、配布窓口にお持ちになるか、問合先へ郵送、FAX（21）2679または2次元バーコードからお申し込みください。



◀ 国民健康保険の方は
こちら



◀ 後期高齢者医療被保険者の方は
こちら

申込期間 4月16日（火）～5月1日（水）（必着）

受診方法 助成が決定した方には、市から「人間ドック検診券」を郵送します。その後は、申請書に記入した検診機関にご自身で直接予約し、検診券と被保険者証、自己負担額分の検診代金などをお持ちのうえ、受診してください。

※市外に転出した場合や、検診を受ける前に他の健康保険に加入した場合には助成の対象にはなりません。また、特定健診（健康診査）と重複して受診した場合は、助成金を返還していただきますのでご注意ください。

問 保険年金課 国民健康保険加入の方 ☎（21）2131 後期高齢者医療加入の方 ☎（21）2137

ネーミングライツ事業

施設の愛称を決定しました！

愛称 **きららの杜とちぎ蔵の街楽習館**

施設名 栃木市市民交流センター（入舟町6番8号）
命名権者 五月女総合プロダクト株式会社

ネーミングライツの募集を行っていた栃木市市民交流センターの愛称を決定しました。愛称は令和6年4月から5年間使用します。正式名称は変更しませんが、広報紙等において愛称を使用していきます。



市民交流センター以外の施設についても、ネーミングライツ事業者の募集を引き続き行っています。詳細は市HP（左の2次元コードを参照）をご覧ください。

ネーミングライツ 栃木市 検索

問 行財政改革推進課 ☎（21）2344

「栃木市での思い出を教えてください」
私と栃木市との縁は、50年以上前の栃木高校入学の時からになります。まだ整備されていない巴波川や県庁堀に鯉が泳いでいるのに驚いたのを覚えています。

プロフィール
栃木高校出身
1982年に7代目春風亭柳橋に弟子入りし、2008年に8代目春風亭柳橋を襲名。
落語芸術協会副会長。



落語家（真打）
しゅんぷうてい りゅくきょう
春風亭 柳橋 さん



さまざまな分野で活躍し、本市の魅力を全国に発信する「栃木市ふるさと大使」。今回は二人の大使をご紹介します。

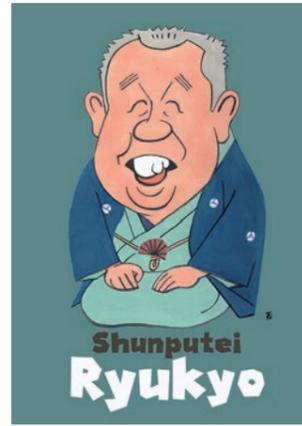
問 広報課 ☎（21）2172

「今の栃木市について感じていることを教えてください」

「栃木市は、並んだ蔵をうまく生かして、映画やドラマにも出てくる江戸の香りを漂わせるステキな風景に変わっていました。」

「高校の先輩や後輩が企画してくれる『栃木落語を聞く会』や『栃木小江戸寄席』の出演も楽しみのひとつです。これからの栃木市に期待することはありますか？」

「これからも落語を通して栃木の歴史や文化を伝えて行けたらと思っています。今後ともご指導宜しくお願ひいたします。」



漫画家

くもた
雲田はるこ さん



プロフィール
栃木市出身
2008年に漫画家デビュー。
落語家を題材にした『昭和元禄落語心中』（講談社）で第21回手塚治虫文化賞新生賞を受賞。

「栃木市での思い出を教えてください」
幼少からほとんどここで過ごしておりますので、思い出の大半が栃木市で作られております。「ふるさと」は速きにありて思ふもの」という詩がありますが、いつまでもここで漫画を描いて居たいです。春は桜、夏はあじさい、秋は星空、冬は夕焼け。どの景色もずっと変わらず、思い出深いです。

「これからの栃木市に期待することはありますか？」
年を追うごとに街の貫禄が増している感じがします。ずっとあるものを大切にしてくれる感じが、きつとそうさせているんでしょうね。道と川と建物の調和も、生活と情緒がほどよく共存しており、益々好きな街になっていきます。新しくできるお店も、その感じを大切にしてくれているのが嬉しいですね。

「栃木市での好きな風景を教えてください」
巴波川の石垣の味わい、その川の流れて沿った建物の連なり、そこに人の歴史と知恵が詰まっています。この川があるからこの街がこういう形になったんでしょう。巴波川沿いはどこも味わいがあり、好きです。



雲田はるこ「昭和元禄落語心中」描き下ろし
《巴波川遊覧船》2023年 栃木市立美術館

広報とちぎでは、今後もふるさと大使を紹介していきます！